

マコガレイの資源管理について

日本海地域、むつ湾地域、太平洋地域の資源管理型漁業実践推進漁業者検討会及び資源管理型漁業実践推進漁業者全体協議会において、マコガレイの資源管理計画について協議がなされ、決議したところであります。資源管理計画の内容は次の通りです。

1 資源管理の必要性

本県では、平成2年に策定したヒラメ資源管理指針に基づき、全長35cm未満の再放流を規制の柱としたヒラメの資源管理型漁業を展開してきた。その結果、ヒラメ資源は順調に回復し、資源管理型漁業の定着が図られている。

一方、マコガレイは青森県全域で漁獲され、漁獲量、漁獲金額が高く、沿岸漁業の依存度が高い重要資源である。近年、活魚出荷への取組もなされ、資源の維持・増大に対する漁業者の関心も高い。本種はヒラメや他のカレイ類と同時に漁獲されることが多く、現在進めているヒラメの資源管理とあわせて管理を行うことが可能である。今後は、マコガレイをヒラメに次ぐ資源管理対象魚種とし、漁業者一丸となってその資源回復を図る必要がある。

2 基本的な考え方

- ・ 現行のヒラメ資源管理の規制に上乗せして管理を実施する。
- ・ 落伍者を出さない資源管理を推進するため、極端に所得が減少するような規制を行わない。
- ・ 価格の安い小型魚は、保護するという考え方を推進、定着させる。

3 具体的方策

- ・ 全漁業種類において全長20cm未満のマコガレイの保護に努める。
- ・ 定置漁業・底建網漁業
全長20cm未満個体の再放流に努める。
- ・ 刺網漁業
かれい刺網の目合規制（3.5寸以上）を徹底する。
- ・ 釣り漁業
全長20cm未満個体の再放流に努める。
- ・ 底びき網漁業
全長20cm未満個体が漁獲個体数全体の10%を越えた場合は操業場所を変更するなどの措置をとる。
- ・ 漁獲方法・販売方法の改善、販売先の拡大などにより価格の向上を図る。

4 推進体制と進め方

- ① 資源管理型漁業漁業者検討会での検討
計画を策定した後、複合的資源管理型漁業促進対策事業で設置されている漁業者検討会において、マコガレイの資源状態や管理効果を検討し、資源管理の充実をめざす。
- ② 普及啓発活動
個々の漁業者に資源管理の考え方について普及啓発を行い、資源管理に対する意識の向上を図る。
- ③ 遊漁者に対する協力依頼
遊漁者に対しマコガレイ資源管理への協力を求める。

マコガレイ とは

地域によって呼び名が違います。

日本海：マガレイ

陸奥湾：マガレイ、クロガシラ

津軽海峡：マガレイ

太平洋：クロガシラ

体高は高くてがっしりした体型です。

裏側は全体が白い（グアニン色素が良く発達）。眼隔域はやや幅広く鱗が数列並ぶ。鱗は細かい

